

## セクション 1：東京 23 区における外国人の居住分布

東京 23 区には、43 万 9959 人の外国人が住んでいる（平成 30 年 1 月）。巡検ではコリアンタウンや江戸川印度文化センターを訪れるが、国籍や地域によって住む場所に偏りはあるのだろうか。

このような考察をするとき、数字が並んでいるだけの統計データを地図化してみると分かりやすくなる。オリジナルの階級区分図（コロプレスマップ）を作って、外国人の居住分布を考察しよう。

【解説 階級区分図（コロプレスマップ）とは】

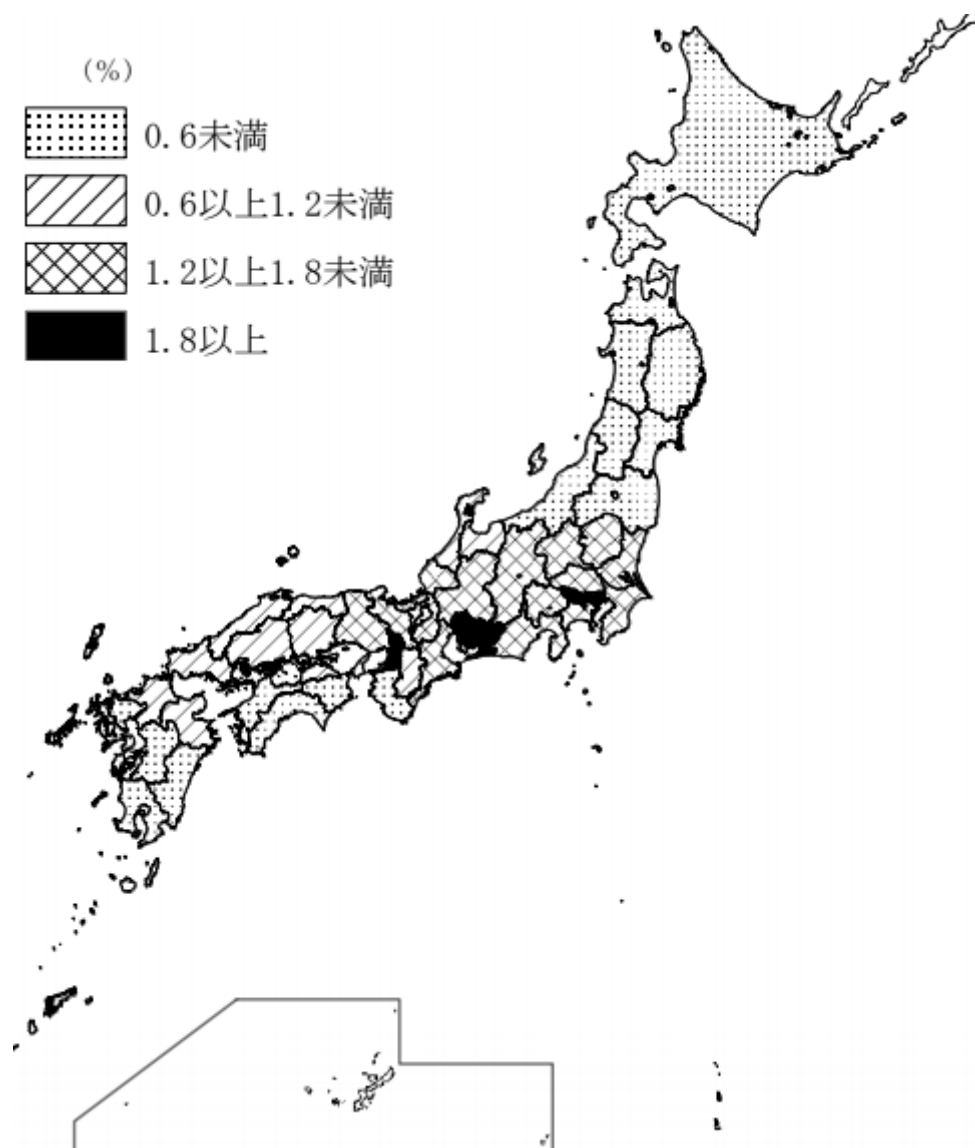


図1 都道府県人口に占める外国人人口の割合（平成 22 年 総務省統計局）

図1は、総務省統計局が模様（ハッチ）をつけた地図である。このように、統計データを3～6程度の階級に区切り、色や模様を塗って表現した地図を階級区分図（コロプレスマップ）という。

階級区分図を作成する際、「数値をどこで区切るか」が大切である。それは、区切り方によって地図を見る側に与える印象が変わるからである。作成者が伝えたいことを強調することもできるし、逆に誤解を与えてしまうこともある。決まった正解はないので、自分なりに考えてほしい。

例えば、データが80～90に集中していたとき、「40未満, 40以上60未満, 60以上80未満, 80以上」と区切ると、同じ色（80以上）ばかりになって見づらいうえ、「どこも数値が高いな」という誤解を与えてしまう。だからといって「70, 83, 88」などといった区切り方では、規則性がなく分かりづらい。

{問1 区切り目の意図は}

総務省統計局は、図1において「0.6未満, 0.6以上1.2未満, 1.2以上1.8未満, 1.8以上」を区切り目としている。中途半端にも見えるが、そこには意図があるはずだ。数値の並びや模様（この区切り方だとどこが黒塗り、どこが斑点になるか）に注目し、どのような意図か考えて書きなさい。ちなみに黒塗りになった3つを数値で示すと、東京都は2.5%、愛知県は2.2%、大阪府は1.9%である。

---

---

---

{問2 東京23区の位置関係を把握する}

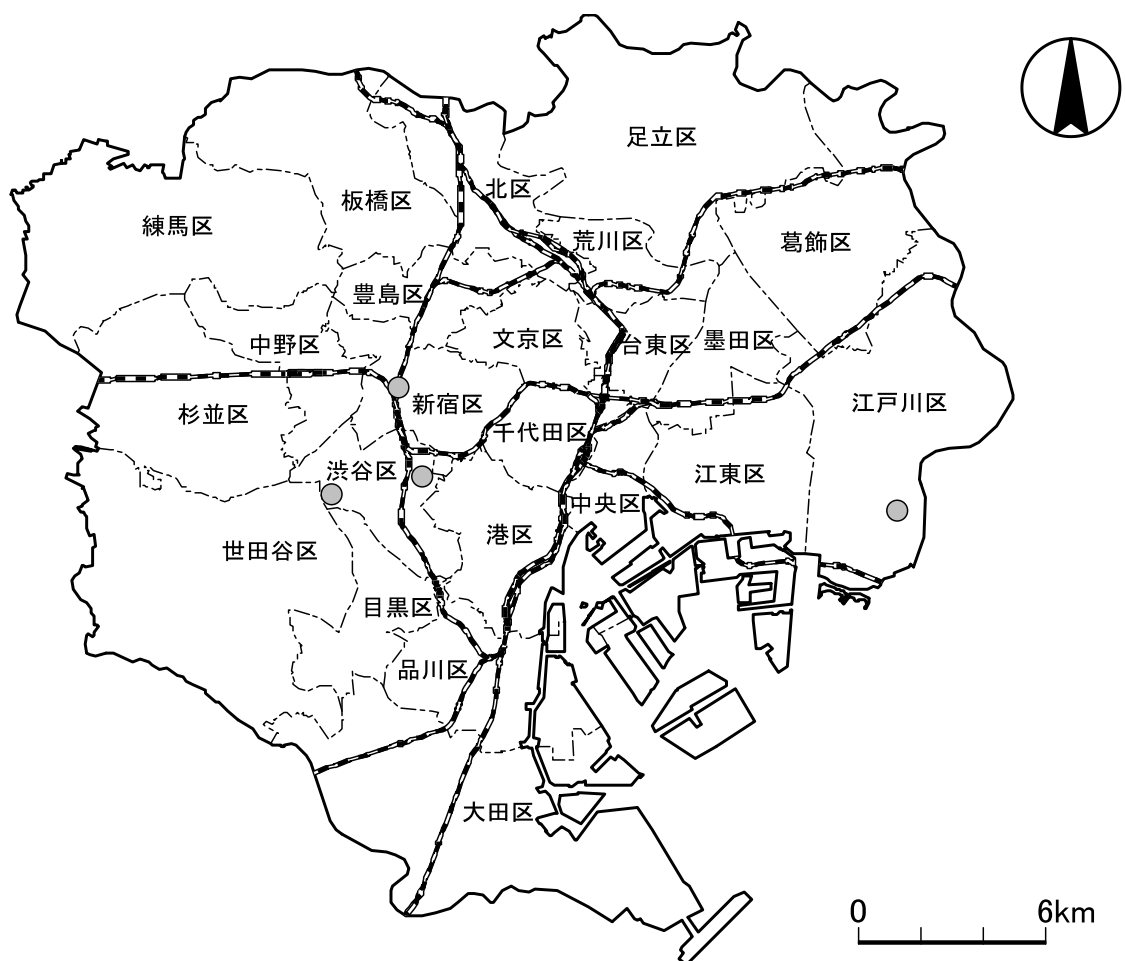


図2 東京23区の位置関係（フリーGISソフト「MANDARA」にて作成）

階級区分図の作成に入る前に、東京23区の位置関係を把握したい。図2は、東京23区の白地図にJRの路線と巡検目的地の点を重ね合わせたものである。

- ①「JR 山手線」をマーカーでなぞりなさい。その際、「池袋駅」「新宿駅」「渋谷駅」「品川駅」「東京駅」「秋葉原駅」「上野駅」の位置も確認しておくこと。
- ②4つの巡検目的地の位置を調べ（巡検チラシにも記載あり）、●の近くか、もしくは引き出し線を入れて名称を書き込みなさい。
- ③「皇居」の位置を調べ、●をつけ、近くに「皇居」と書き込みなさい。

{問3 ヨーロッパ系とアジア系の比較 ①階級区分値（区切り目）を決める}

表1 東京23区における地域別の外国人総数に占める各区の割合（単位 %）

| ヨーロッパ系 |    | アジア系 |    | ヨーロッパ系 |   | アジア系 |   |
|--------|----|------|----|--------|---|------|---|
| 港区     | 14 |      |    | 練馬区    | 3 | 港区   | 3 |
| 世田谷区   | 11 |      |    | 品川区    | 3 | 墨田区  | 3 |
|        |    | 新宿区  | 10 | 板橋区    | 3 | 品川区  | 3 |
| 新宿区    | 9  |      |    | 文京区    | 3 |      |   |
| 渋谷区    | 9  |      |    | 台東区    | 3 |      |   |
|        |    | 江戸川区 | 8  | 江戸川区   | 3 |      |   |
|        |    | 足立区  | 7  | 中央区    | 2 | 文京区  | 2 |
|        |    | 豊島区  | 7  | 北区     | 2 | 中央区  | 2 |
|        |    | 江東区  | 7  | 足立区    | 2 | 渋谷区  | 2 |
| 目黒区    | 6  | 板橋区  | 6  | 荒川区    | 2 |      |   |
|        |    | 大田区  | 5  | 墨田区    | 2 |      |   |
|        |    | 北区   | 5  | 千代田区   | 2 |      |   |
|        |    | 葛飾区  | 5  | 葛飾区    | 1 | 目黒区  | 1 |
|        |    | 荒川区  | 5  |        |   | 千代田区 | 1 |
| 大田区    | 4  | 練馬区  | 4  |        |   |      |   |
| 江東区    | 4  | 中野区  | 4  |        |   |      |   |
| 杉並区    | 4  | 世田谷区 | 4  |        |   |      |   |
| 中野区    | 4  | 杉並区  | 4  |        |   |      |   |
| 豊島区    | 4  | 台東区  | 4  |        |   |      |   |

「東京都の統計（<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/>）」より作成

「ヨーロッパ系」列の「港区 14」とは、「東京23区に住むヨーロッパ系外国人の中で、港区に住んでいる人は14%」ということの意味する。この表を見るだけでも、各区で偏りのあることが分かる。しかし階級区分図を作成することで、視覚的に分布を把握できるうえ、他の要素（位置関係・地形・交通など）との関係も考察することができる。これが地理的な見方・考え方である。

では、表1のデータを4つの階級に区切るとき、3つの区分値（区切り目）をどこにするか考え、マーカーで線を引きなさい。その際、ヨーロッパ系とアジア系の比較のために、両方とも同じ区分値としなさい。また、具体的な値（○%以上△%未満）と、区切り方の意図を以下に説明しなさい。

---



---



---



---

{問4 ヨーロッパ系とアジア系の比較 ②階級区分図を作成して考察する}

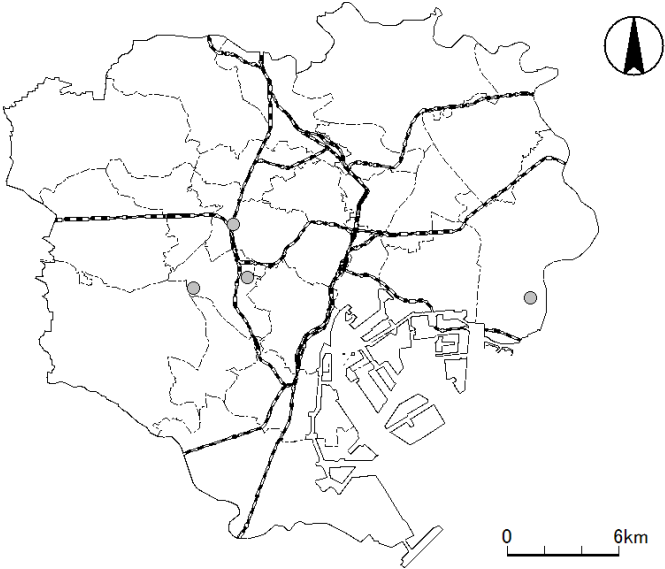
表1のデータにもとづいて、ヨーロッパ系とアジア系の階級区分図を作成しなさい。塗り方は4色（あるいは4つの模様）で、見やすくなるよう工夫しなさい。また、作成した両方の階級区分図を比較し、読み取れる分布の特徴を説明しなさい。さらに、なぜそのような分布になるか、自分が思いついた要因を書きなさい（自分なりの考えでよい）。

{ヨーロッパ系}

※凡例（□に色や模様、右に数値）  
を書きなさい。

|   |     |        |    |
|---|-----|--------|----|
| □ | { } | 未満     |    |
| □ | { } | 以上 { } | 未満 |
| □ | { } | 以上 { } | 未満 |
| □ | { } | 以上     |    |

(%)

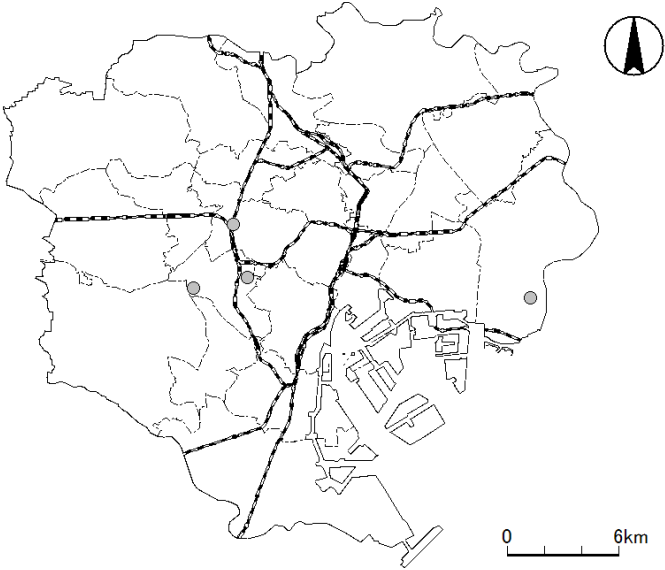


{アジア系}

※凡例を書きなさい  
(ヨーロッパ系と共通)。

|   |     |        |    |
|---|-----|--------|----|
| □ | { } | 未満     |    |
| □ | { } | 以上 { } | 未満 |
| □ | { } | 以上 { } | 未満 |
| □ | { } | 以上     |    |

(%)



{分布の特徴}

---

---

{要因}

---

---

---

{問 5 韓国人の分布を考察する}

同様に韓国人の分布について階級区分図を作成し、考察しなさい（階級は4つ、区分値は自由）。

表 2 東京 23 区における韓国人総数に占める各区の割合（単位 %）

| 韓国人  |    |     |   |     |   |      |   |
|------|----|-----|---|-----|---|------|---|
| 新宿区  | 13 | 練馬区 | 5 | 杉並区 | 3 | 文京区  | 2 |
| 足立区  | 10 | 大田区 | 5 | 豊島区 | 3 | 渋谷区  | 2 |
| 荒川区  | 7  | 港区  | 4 | 品川区 | 3 | 目黒区  | 2 |
| 江東区  | 6  | 台東区 | 4 | 北区  | 3 | 中央区  | 2 |
| 江戸川区 | 6  | 中野区 | 4 | 墨田区 | 3 | 千代田区 | 1 |
| 世田谷区 | 6  | 葛飾区 | 4 |     |   |      |   |
|      |    | 板橋区 | 4 |     |   |      |   |

「東京都の統計（<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/>）」より作成

{区分値と意図}

---

---

---

{韓国人}

※凡例（□に色や模様、右に数値）  
を書きなさい。

{ }

未満

{ }

以上 { }

未満

{ }

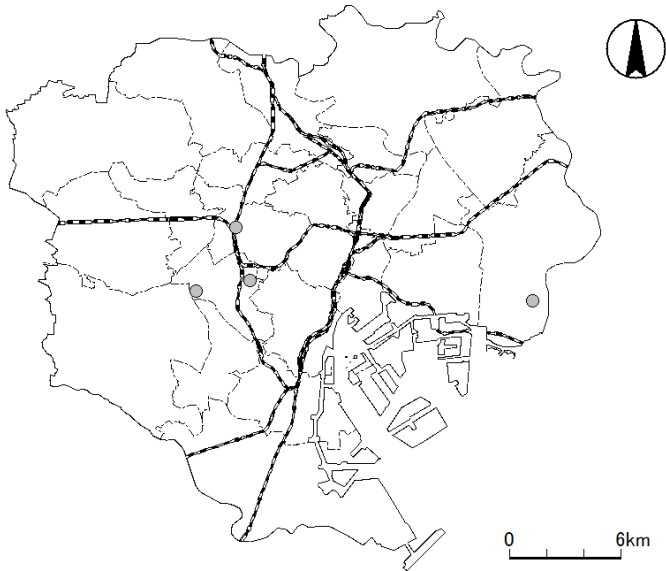
以上 { }

未満

{ }

以上

(%)



{分布の特徴}

---

---

---

{要因}

---

{問 6 インド人の分布を考察する}  
同様にインド人の分布について階級区分図を作成し、考察しなさい（階級は 4 つ、区分値は自由）。

表 3 東京 23 区におけるインド人総数に占める各区の割合（単位：%）

| インド人 |    |     |   |     |   |      |   |
|------|----|-----|---|-----|---|------|---|
| 江戸川区 | 36 | 中央区 | 2 | 足立区 | 1 | 文京区  | 1 |
| 江東区  | 18 | 新宿区 | 2 | 板橋区 | 1 | 墨田区  | 1 |
| 台東区  | 7  | 目黒区 | 2 | 中野区 | 1 | 葛飾区  | 1 |
| 港区   | 6  | 渋谷区 | 2 | 練馬区 | 1 | 千代田区 | 1 |
| 世田谷区 | 5  | 豊島区 | 2 | 杉並区 | 1 |      |   |
| 品川区  | 4  | 北区  | 2 | 荒川区 | 1 |      |   |
| 大田区  | 3  |     |   |     |   |      |   |

「東京都の統計（<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/>）」より作成

{区分値と意図}

---

---

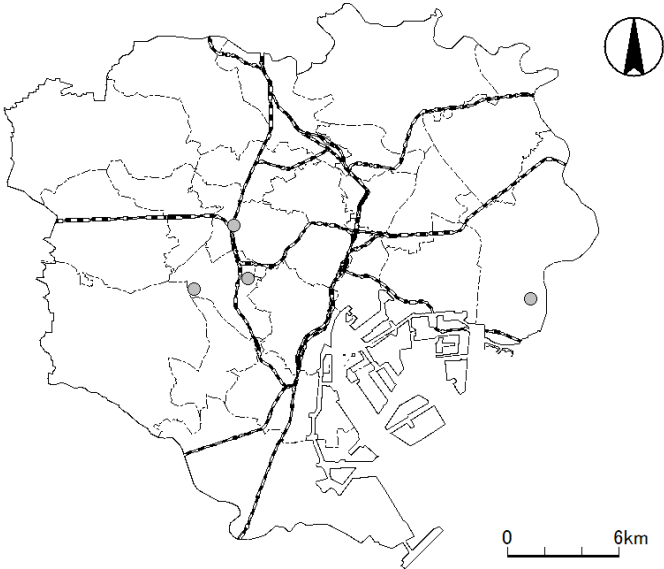
---

{インド人}

※凡例（□に色や模様、右に数値）  
を書きなさい。

|             |   |  |   |      |  |   |    |
|-------------|---|--|---|------|--|---|----|
| <div></div> | { |  | } | 未満   |  |   |    |
| <div></div> | { |  | } | 以上 { |  | } | 未満 |
| <div></div> | { |  | } | 以上 { |  | } | 未満 |
| <div></div> | { |  | } | 以上   |  |   |    |

(%)



{分布の特徴}

---

---

---

{要因}

---

---